

未来に繋がる襷

校 長 武井 正明

昨年初めて駅伝を観戦して、その魅力や苛酷さの一端を、ほんの少し知る事ができた。

とにかくこの小千谷はアップダウンがきつく、大変なコースだ。地元小千谷の選手たちはこのコースをガンガン走り込むと聞く。県大会はビッグスワン。両者を比較すると、平坦な走路が多いビッグスワンは、記録を出しに行く「攻めのコース」対して小千谷は耐えに耐え抜いて、勝負所で地力の差が如実に表れる「守りのコース」という印象である。

今日は残念ながら、午前の女子のみの観戦となった。午後の男子は弥彦 JHSRC の選手として出場する。彼らの走りっぷりも興味深い。先日の新人戦は、土砂降りのコンディションであったが、今日は曇り。時折風が吹く、走るには丁度いい天候となった。

今回吉中女子チームは、とにかく駅伝に出たい気持ちが強く、短距離選手で占めていたが、敢えてエントリーした。

アンカーを務める彼女は「目標は、みんなが笑顔で走ることです」と言った。

そしてレースは始まった。

第1走者の段階から、どのチームも物凄い速さで選手たちが目の前を駆け抜けていく。

大きくコースを廻り、観客が見えない所で選手たちは藻掻きながら、走り抜けてようやく姿を見せる。第2走者の段階で、既に差が開いてきた。やはり短距離走と長距離走では、走り方が全然違うのだろう。

ただ苦戦は承知の上だ。手を抜くことは一切なく第3走者へと繋ぐ。

この頃は走り終えた第1走者の彼女が、タオルで涙を拭いながらの応援だ。自分が味わってきた苦しさ、今仲間が向き合っている。そう思ったら叫ばずにはいられない。

そして第4走者へ我慢の走りが続く。感心したのは本当に誰一人諦めていないことだ。

アンカーに襷を繋ぐ時、大会五連覇を果たした十日町南のゴールとシンクロした。

この場面は圧倒的な力の違いを見せつけられたようで、見ていて正直、悔しかった。

そして最後にアンカーが走る。彼女は宣言通り、最後の難関球場脇を走っている時、宣言通り、声援に笑顔で応えていた。本当に走るのが好きな子たちなんだなあ…。

倒れ込むように総ての力を出し切って、参加チームの最後にゴールした後、テントに戻る彼女を皆が、涙と笑顔で迎えた。

吉中陸部、今日も爽やかな走りで感動を貰った。きっと今日の走りは、未来に繋がるぞ!!

